

まき

発行所 西蒲原郡 卷町公民館
編集人 北川郡司
印刷所 北洋印刷株式会社

久方振りの豊漁

—海岸線に明るいニユース—

いま折戸浜、越前浜、角田浜、浦浜では思わぬ小鯛の大漁に部落あげて賑っています。すでに浦浜だけでも一、五〇〇貫余が水揚げされました。こういつたことは二十年振りのことと言われ、午後から子供の姿も見られるなど久方の豊漁に部落は明るい。

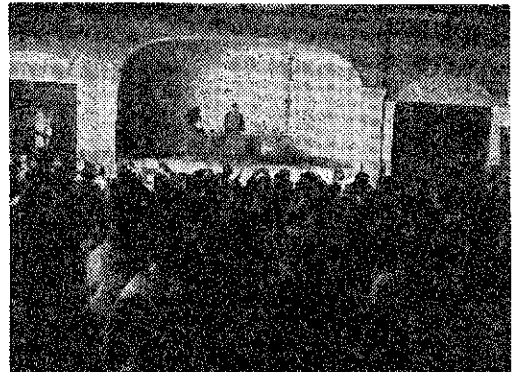
木村毅氏の講演会など

—各地の文化祭—
今年の文化祭は五日の木村毅先生の「日本のことを語る諸問題」講演会を中心とした巻、入徳館、浦浜、四ツ郷屋の文化祭と二十三日の勤労感謝の日を中心として繰り広げられる中、竹野町小、松野尾文化祭と大きな山が二つある。

豊漁にわく五ヶ浜



木村毅講演会(巻小学校)



文化の花(松野尾)



冷雨をついてマラソン大会



菊花展、六日七日八日、生花展、九日十日盆裁展、十一日十二日十三日文化遺産展がそれぞれ公民館に於て連日開かれた。

五日木村毅先生の講演会は六百余の聴衆を集めて巻小学校に七日八日巻小文化祭と同時に洋画、書道、写真、菊花展が開かれた。折からの「たから祭り」に七、八日の両日、巻は近郷からの人出でこつたかえしていた。

この日の参加者九名、巻、前田、仁ヶ、松山、竹野町、間手橋と力走、峰岡の大沢鉄男君が四分三秒で二位角田

二位角田 長谷川清一 四分四六秒
三位越前浜真田徳之助 五〇分八秒
四位角田 石田平八郎 五〇分一八秒
五位越前浜 小川久二 五〇分二一秒

大澤君(岡)優勝

マラソン大会

巻町連合青年団主催、巻町一周マラソン大会は七日冷雨しきりの十一時公民館前を出発した。

青年講習会

漆山永伝寺で

第二回巻町青年講習会は来る二十五日より二泊三日、漆山の永伝寺を会場に開く。青年団の本質、部落青年団の運営と活動、団体活動の技術等について約五十名が参加する。

籠球は

サーブス店会

卓球では

小池君が優勝

十一月十八日公民館主催籠球大会(巻中学校)卓球大会(巻農業高校)が午前九時よりそれぞれ開始された。籠球大会はサーブス店会、卓球大会では小池君が優勝した。



◆新津から巻まで「オート」三輪で来たという人達が、来るなり言つた言葉が忘れられない。「西蒲原へ入ると、とたんに道が悪くなった。その中で漆山と巻が一番悪い」
◆初めて巻町へ入つた者の第一印象である所が聞いていた人達の話がこれに続いた。「西蒲原には「エライ」政治家がいなかった。」
◆「第一県庁あたりに西蒲出身の人達が何人いるかだ」
◆蒲原行政だと山の手には羨まれるが、蒲原とは、北、中、南蒲原のことだよ」
◆次から次へと話が移る。
◆「エライ」政治家を育てる気持、有能な人達を送り出す考えもなく、何もかも日本一揃いのような考えで盛り込んでいる「郡民気質」とも取れる。
◆これから又来年の夏頃迄か、あの悪道路ぶりには、思つただけでもウンザリするがそれを増して、人を育てることの重大さを感ずるのには、秋の感傷からだけではないうた。

問答 私達の広場 回答

○農村の青年達が農村を嫌う原因として、農村の現状からすぐ都会の表面的の一部分を比較して農村を嫌う又つまたらないと思う人達が案外多いのではないかと、それよりも農村に生まれ、そのしくみの中に生活をしていく私達であるから農村をすぐつまらないと思ふ前に生活を深くみつめ、現実の中から改善すべきものを見出し、皆なで協力し合い、農村というものを我々青年が平先して変えて行くんだという勇気と努力が必要なのではないか。

◇問題に対し話し合われた対策

- 一、一年間の農作業には二つの山場があるが、農作業に対する計画を立て、仕事を家族が相談の上で分担し合うことによつて二つの山場を少しづつくずすこと

農村青年にして農村を嫌う、魅力が失つていく。これは一体どうしたことになるらう。これは真けんに考えたければならない。俺たちはいろいろデスカッソンを重ねた末、次の四つの問題点を出しあつてみた。

- 一、仕事が過重であること。
- 二、暇がないこと(特に女性)。
- 三、陰口というものが多きこと。
- 四、家庭の仕組にばらばれ過ぎること。

以上について、適切な打解策があつたらきかせて貰いたい。

(松野尾青年学級河村一良横山行雄)

がで仕事に責任をもつことによつて希望と励みが生まれてくるのではないか。

二、に対して暇がないということ

は仕事に対する計画性が

しようとしている。これらの問題は一の対策のようによつて解決し、皆んなで話し合い、家族全員の理解と協力が必要である。

二と三の対策が、つちりとした家庭、部落のしくみの中で、たえず噂などにしげられ、若い人達の発言や考えが認められない現状から、青年団の学習の場を生産、生活に對する話し合いを持ち、その中から問題意識を高め、学習と実践(他団体との協力、広報宣傳等)を通じ、家庭に

於て青年達の立場を認めてもらい家族全員の発言の場を作るよう努力する。特にうわさに對しては青年自身が学習により賢明な思考力を養い、先ず青年の社会からつまらない口をなくするといふ決意と努力が必要である。それには私たち青年が常日頃の行いをたえず反省し、良心に恥じない行動をとることに心がけなければならぬ。

出席者 竹野青年団生活グループ

阿部 虎雄 二一才
鈴木 栄一 二一才



じょう山

雲は低く垂れて、刈田の風景は見るだにわびしい。

こゝは竹の町の地内で城山(じょうやま)といわれる田圃に長くつき出た半島状の丘陵。北の方を下域と呼んでいる。

昔の城あとの、こゝの石を運ぶとたよりがある。と村人はつたえている。

だが近年、地方史の研宄が進むにつれて此処は昔、湿地帯を前にひかえた大昔の人々の生活。畦道に枯れ残つたすゝきの穂に、冷い雨足が又もしぐれて通つてゆく。



短日小吟 沢栗牛額花

十月二十九日竹野町葛蒲塚を訪ねて

秋既に小雨もよひの日短くあやめの塚に侍てばかそけし訪ね来し葛蒲信女の墓のまへ落葉ひとつが日溜りに戻る微熱もつ身ぬち寒くわが踏めるこの緒土の古墳のふくらみもろもろの墓に交りて芝塚の小さきがあらはれ菌のごとくして赤松の隙より見ゆる山近み刈り尽されし田に人居らず岩室の松茸山もこゝにして歯はつかに染むと見しはや

(頼政弟の居城ありしと伝へければ)

刈終へてひこばえ伸びし山麓の秋は日増しにふけゆかむとす繩紋の土器二つ並べてこの寺の住持が語る声の寂びたり

金仙寺にて

青錆びし経筒重く手に触れば奇しくもあるかいにしへの振り黒塗りの位牌の文字をうつつなく眺めて居れば日脚かたむく

- 大沢チイ子 二二才 中山 耕平 二五才
- 桑原 光子 一九才 司会
- 米原チイ子 一九才 本間 昭一

編集後記

文化祭もあと漆山、降岡、松野尾を残してほとんど終つた。

この文化祭が始まる頃から社会教育も急速に活況を呈して来る。青年学級、婦人学級など学習活動の準備に入る。それがために各地に研究会が持たれるようになる。今月はこれらの集會に出席された方々からその感想や報告などいただいた。

一年は早いもの、もう浴病院が開院一周年という。町から頼まれ今月は病院の特集号とした。